

飛騨野菜、首都圏の販路拡大

西友が全店でトマト取り扱い

ハウレンソウも販売開始



飛騨産のトマト、ハウレンソウの常設販売エリアをPRする、西友とJA全農岐阜の担当者＝東京都北区赤羽、西友赤羽店

西友は、今月から首都圏1都5県の店舗で、飛騨地域の特産野菜の取り扱いを拡大した。「飛騨トマト」は全149店舗で常設販売を始めたほか、新たに「飛騨ほうれんそう」の取り扱い

も始めた。全国農業協同組合連合会県本部(JA全農岐阜)、青果仲卸のカネ井青果(岐阜市茜部新所)が仲介し、昨夏から飛騨トマトの販売をスタート。初年度

は約57万トを取り扱い、実際の形や色付きが安定している点などが評価された。今年は約96万トに増やす計画。西友担当者は「夏季にこれほど品質が安定し、数量も見込める産地は多くない。(複数個を同時売りする)パックものは、ほぼ

全て飛騨産になっている」と話す。初年度の飛騨ほうれんそうは約8万トを取り扱う予定で、全体の約6割に当たる約80店舗で販売する。ともに9月中下旬までの取り扱いを想定している。